

2021年度 高校生向け出張授業等一覧

【せとうち観光専門職短期大学】

No	テーマ	内容	氏名
1	衣食住の地理 ーイランと日本の比較からー	和辻哲郎も『風土』で述べるように、西アジア地域は、東アジアと異なり極めて過酷な自然環境の大地です。この地域の人々の伝統的な生活や文化を自然環境(地域資源)との関係から見ていきたいと思ひます。「所変われば品変わる」と申しますが、自然環境の違いが衣食住にどのような違いをもたらしたのか、その点を実際に理解してもらえればと思ひます。	准教授 吉田 雄介
2	ペルシア絨毯からみるグローバル・ナショナル・ローカルの結びつき	ペルシア絨毯は、イランの地域資源が生み出したこの地域に独特の産品です。そして、いまだに人間が器用な指先で糸を一本一本結ぶことで織り上げられます。ただし、その生産が飛躍的に拡大したのは、19世紀の末にヨーロッパ向けの輸出生産が拡大したからです。そこで、このペルシア絨毯から、グローバル・ナショナル・ローカルの関係を読み解いてみたいと思ひます。	准教授 吉田 雄介
3	京阪神の地誌	京阪神、つまり京都・大阪・神戸地域の全体像を、都市や人口など地理的な側面から把握したいと思ひます。図表を利用してわかりやすく京阪神地域を考えていきたいと思ひます。	准教授 吉田 雄介
4	江戸時代の旅人にきいてみた200年前の観光旅行	日本の旅行史においては、観光現象は明治時代以降のものだとされていますが、江戸時代には既に多くの人々が楽しみを目的とした旅をおこなっていました。この授業では、江戸時代の旅日記やガイドブック、浮世絵などを紐解きながら、当時の旅と現在の観光の相違点や共通点を探っていきます。	助教 谷崎 友紀
5	ホテルで働くことの魅力とは	ホテルは多種多様な職業人から成る組織で運営されています。宿泊に係わるスタッフ、宴会やレストランのサービススタッフ、料理人、管理部門の人たち等々、長年のホテルマンとしての経験から、それぞれの仕事内容を具体的に説明し、ホテルで働くことの喜び、働き甲斐を伝えたい。	准教授 小島 英夫
6	漫才はどうやって生まれたか？	誰でも一度はテレビで漫才を見たことがあるでしょう。二人組が登場し、一方がとぼけたことを言い、他方がつつこむという「ボケとツッコミ」という役割分担もすっかりおなじみのものになってしまいました。しかし、これは昭和初期には「最新の芸能」だったのです。どんなふうにも漫才は生まれたかを見ながら「お笑い」と社会についてお話します。	准教授 田保 顕
7	ゲストハウスってどんなところ？	ここ数年、ゲストハウスという宿泊施設が多くみられるようになりました。ホテルとは異なり見知らぬもの同士で1つの部屋に宿泊したり、トイレやシャワーを共同利用したりするのが特徴です。安価なので外国人の若者もよく利用します。ゲストたちはどんなふうにも過ごし、ホストはどう切り盛りしているのでしょうか？	准教授 田保 顕
8	「観る」観光から「感じる」観光へ ～瀬戸内の宝を見つけ、発信しよう～	生徒自らが地域の素晴らしさに気づき、伝えることの大切さを学ぶ。瀬戸内の事例から、なぜ観光地として注目を集めるようになったのかその経緯を理解する。また、グループワークにより身近にあり観光素材を話し合い発表する。	准教授 石床 涉
9	うどん県の国際化 ～英語が話せなくてもできる国際化とは～	国際化が地域にもたらす活性効果を学ぶ。日本人の常識と海外旅行者の常識を比較し、ダイバーシティとは何かを考え、今後の国際化における重要なポイントを見出す。香川県内の地元住民によるインバウンド客の受け入れ活動などの事例をもとに、国際化の本質とは何かを生徒と一緒に考える。	准教授 石床 涉
10	地方発 一流ホテルマンへの道	ホテルで仕事をするうえで大切なホスピタリティとは何かを考え、必要な人材像を考察する。地方出身者が国内外のホテルで仕事に就き、お客様から感謝されることでやりがいを見出すまでの経緯を自身の経験をもちに説明する。また、ホテルの現場だけでなく、必要とされるスキルや現場で対応できる人材とはどういうものかを考察する。	准教授 石床 涉

2021年度 高校生向け出張授業等一覧

【せとうち観光専門職短期大学】

No	テーマ	内容	氏名
11	メディア作品から見た瀬戸内の魅力	瀬戸内を舞台にした映画、テレビ、雑誌などのメディア作品をとおり、観る側の心に響くもの、地元の人が気づかない地域の誇るべきものは何かを学ぶ。数々の瀬戸内で撮影された映画などをもとに、メディア制作側と地域住民が一体となったフィルムコミッション事業が地域にもたらす波及効果を検証する。	准教授 石床 渉
12	「海外から見た瀬戸内」と「瀬戸内から見た海外」	日本と海外の価値観や文化の違いについて考察する。「瀬戸内の観光」などを題材にグループワークにて簡単な SWOT分析をおこない身近な観光資源に気づく時間を持つ。仕事や旅行など様々な目的で来日するインバウンドへの対応の違いや、リスクを明確にし、課題を考察する。	准教授 石床 渉
13	人に会って素晴らしい —挨拶と接遇(せつぐう)マナーの実践—	COVID19によるパンデック以来、世界のどこでも、自由に人に会うことが制限されるようになりました。これまで内外から多くの観光客を受け入れていた瀬戸内、四国ですが、出かけること、受け入れること自体、今は我慢の時間が続いています。これまで、人に会うことは当たり前でした。しかし、人に会えること、人に会って素晴らしいと思える今だからこそ、今後自由に会える時のため、美しく感じの良い挨拶の仕方、人と接するときの接遇マナーを学び、実践できるよう準備しておきましょう。	准教授 堀田 明美
14	国際儀礼(プロトコール)を学び実践しましょう	COVID19のパンデミック以来、海外からのインバウンド観光、海外への旅行、そのどちらにも制限がかかっています。このような時だからこそ、国際儀礼(プロトコール)を学び、今後の楽しい旅に備えましょう。国際儀礼(プロトコール)は、外務省や外交官、海外赴任・出張、留学のためだけのものではありません。コロナ禍でなければ世界中の誰もが自由にどこでも行き来できる時代、日常のマナーとして当たりまえの振舞いといえます。国際儀礼(プロトコール)の原則を学び実践しましょう。	准教授 堀田 明美
15	動物園の成り立ちを知ろう!	レクリエーションの場として馴染み深い動物園が、いつどのように成り立ち、発展してきたのかを見ていきます。動物園の展示を通して、私たち人間が飼育動物と紡いできた関係性を考えてみましょう。	助教 平 侑子

※一覧は一例です。観光に関する授業であれば対応できますのでご相談ください。